

「広陵町自治基本条例」って知ってる？
自治さんと学ぶ自治基本条例講座

「何かをしたい想い」がまちづくりの第一歩

～これまでをおさらい～



Vol.37

あらすじ

「自治基本条例って何?」「難しそう…」初めて自治基本条例という単語を聞き、そう感じる人も多いと思います。そこで、普段からまちづくりに疑問や悩みを持つ「イヤイヤさん」と、この条例に詳しい「自治さん」が自治基本条例（まちづくり）に関わりのある皆さんの活動を紹介しています。

自治 基本 条例

自ら治める（決める）ための

土台となる

基本ルール

自治活動

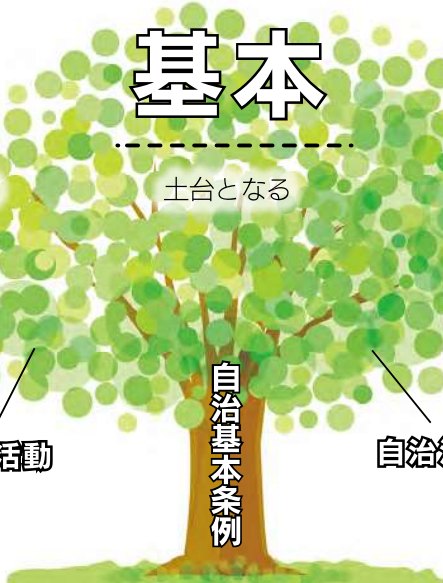
自治活動

自治基本条例

自治活動

自治活動

自治活動…個人や団体が自発的に行う公益的な（みんなのためになる）活動のこと



自治基本条例イメージ図

タイトルにあるとおり、皆さんの「何かをしたい想い」、強い想いはなくても一人ひとりの何気ない行動が、広陵町を住みやすい、住み続けたいまちになるために行うまちづくりの第一歩です。

例えばごみ。ごみ出しには「〇曜日に燃やすごみを出す」「きっちりごみを分別して出す」といったルール、決まりがあります。ルールを一人ひとりが



守ることで、ごみ処理費用が抑えられ皆さんからいただいた税金をごみ処理以外に使うことができます。

また、家の前、地域の公園や河川を清掃することできれいな広陵町を維持することができます。

このように個人や団体の自治活動（葉っぱ）が合わさってまちづくり（大きな木）につながります。自治基本条例は、大きな木を維持し、大きくしていくための根幹（根や幹）です。

協働のまちづくり提案事業補助金 問

協働のまちづくり推進課 ☎内線 1366

目的

地域や団体などの「何かをしたい想い」と行政が解決すべき課題とをマッチングし、町との協働事業を支援します。

補助金額（上限額）

1年目 **30**万円（補助率100%）

2、3年目 **15**万円（補助率50%）

補助要件

- ・3年間事業を継続して実施する予定であること
 - ・4年目以降は自立した取り組みを行うこと
- ※町との協働事業になるため、必ず事前相談をしてください。

利用までの流れ



1 町ホームページから申請書をダウンロードし、申請書類に記載



2 メールや持参により受付
募集期限：

5/24 まで



3 6月下旬に
プレゼン審査を行い、
決定します。



詳細はこちら



まずは、「相談を！」

「広陵町自治基本条例」って知ってる？

自治さんと学が 自治基本条例講座

Vol.38

「何かをしたい思い」が まちづくりの第一歩

～災害のときはみんなで命を守ろう！～

▶ポップな案内チラシ



▲手作りの防災かみしばい

元日に能登半島の地震を見て「災害の時は自分たちで命を守ることを子どもたちに伝えたい」と思い、まずは教室に通っている子どもに向けてやってみました。当日は、町の防災士ネットワークの皆さんの助けを借り、子どもたちにどうすれば伝わるかを考えました。と話すのは、教室を主宰する椋本さん。今回

#きっかけ

春の訪れが感じられる3月16日、大字萱野にあるKUMON広陵北教室で教室に通っている子どもたちへの防災教室が開かれました。



の地震は、元日で家に家族全員がいる中で揺れた家庭が多いことから、話し合うきっかけになったことでしょう。

#見て聞いて作って学ぼうさい

教室では、子どもたちがスタッフ手作りのかみしばいを聞いたあと、ズボンとロープを使った簡単な防災リュックを一緒に作りました。また、防災士で地元萱野に住んでいる馬野さんから災害時に役立つ食糧、飲料水、

#今後について

次は、5月19日に町が実施する校区の防災訓練にも子どもたちやその保護者が参加したいと思えるようお手伝いしたいと思います。と椋本さんは話します。

懐中電灯（ライト）などを実際に見せてもらい「これらを備えるだけでなく日頃から使っているなら、いざという時に迷わずに使えるね」と教えてもらいました。



楽しく学び、知ることで自分の地域に関心を持てますね！



▲楽しく学ぶことができました！

自治さんと考える まちづくり (広陵町自治基本条例)

～ 皆さんの活動が、健康づくり・まちづくりにつながります ～

問 介護福祉課地域包括支援センター ☎ (54) 6663 協働のまちづくり推進課 ☎ (55) 1001

人とのつながり（助け合い）は「自然と健康になれる」の強み（要素）のひとつ！！

地域の「人とのつながり活動」は健康につながっています。人とのつながりで地域の課題解決や支え合い、介護予防の担い手として社会参加活動をされている皆さんを紹介します。

「真美一まちづくり協議会」

地域課題を自分たちで解決するための取り組みをしています



▲ 令和6年度の総会

「真美一まちづくり協議会」は、真美ヶ丘第一小学校区の自治会、自主防災会、幼小PTA、民生児童委員、事業所などの団体が集まり、校区全体の課題解決やふれあいを目的として結成し、3年目を迎えました。この地域がより安全安心なまちとなり、子どもたちのふるさと、住民の憩いの場となるよう活動してまいります。



▲ 地域活動の様子

「KEEPの会」

運動を切り口に住民がつながるために通いの場を支えています



▲ 役員の皆さん

私達は、町主催の広陵町介護予防リーダー養成講座を修了した後、「KEEPの会」として町の介護予防普及啓発のために活動しています。主に、「通いの場」（地域住民主体で開催される運動を中心とした居場所）の立ち上げや継続支援をしています。運動だけでなく、「通いの場」の参加者が楽しく過ごせ、地域でつながりができることを目指しています。



▲ 通いの場での体操

「広陵ささえ愛」

住民同士で支え合える地域づくりを目指して活動をしています



▲ 議題解決のための話し合い

「広陵ささえ愛」は、地域の高齢者のお困りごと（生活支援）や見守りなどを地域で支える活動を考え、進めています。「自分が支える地域は、自分を支えてくれる地域」となるよう小学校区ごとにワークショップやアンケート調査をしています。地域の支え合い活動に興味がある人は、広陵町社会福祉協議会にご連絡ください。

▼ 勉強会



自治

この取り組みって、まさに協働のまちづくり！

つながりは、外出・交流・参加から始まります！お住まいの地域のイベントに参加しませんか？
広陵町介護予防リーダー（KEEP）養成講座は、10月開講。※広報9月号に掲載予定

住んでいて良かったと思えるまちづくりのために、行政だけでなく地域の住民や団体が考え取組もうとすること（協働のまちづくり）が「自然と健康になれるまち」広陵町につながっています。



自治会初！馬見北5丁目のまちじゅう図書館



▲ 馬見北5丁目自治会長 滝 哲也さん



▲ 談笑中のひまわり会の皆さん



▲ ひまわり会手作りの素敵なしおりもプレゼント

静かにしなくて良い図書館

今回は馬見北5丁目の集会所で開設されている「まちじゅう図書館」を取材しました。

中から音楽が聞こえてきて詩吟クラブが利用されているのかと入るのを躊躇（ちゅうちゆ）しましたが、おそろのおそろのドアを開けてみると皆さん笑顔で迎えていただき、楽しく明るい雰囲気の中で話を聞くことができました。

きっかけ

自治会加入率低下に悩んでいた会長の滝さん。

区長・自治会長会で畿央大学の自治会についての研究資料を目にし、大学に相談。大学のアンケートで、地域活動に参加したいと思っている人が意外と多いことが

わかりました。

その後、まちじゅう図書館の制度を知り、地域の人に声をかけると十数人の方が集まり、管理人としての「ひまわり会」が発足しました。

管理人をしてみて

話ができる人が増えたり、普段読まないような本に出会えたり、図書館まで行かなくても地域で本が読めたり、自分も楽しみながら管理人をしています。

「こんな本があるわー」「こんな本書いてあるわー」と本を見せ合い、共感したり時には爆笑したり。「レシピの本が読みたい」といったリクエストも柔軟に対応できるので、気軽にご利用ください。普段出会えない素敵な本や人たちと出会えると思います。

「できる人ができることを楽しみながら」

気軽に集まれる場所づくりを楽しみながら図書館を運営をされている素晴らしい地域でした。自治会長の滝さんは他にも自治会でやってみることがあるみたいです。今後も楽しみますね。

自治



▲ 自治さん

これぞまちづくり！自治会活動の活性化になっていきますね！

馬見北5丁目のまちじゅう図書館

▶ 場所：馬見北5丁目集会所

▶ 開設日：

毎週水・土 13:00～15:00

どなたでもご利用できるので、皆さんぜひお立ち寄りください。

「まちじゅう図書館」は地域に合わせてさまざまな方法で設置することができますので、図書館までお問い合わせください。

▶ 問い合わせ先：

広陵町立図書館 ☎ (55) 4946

親子で楽しみながら生きる力を育む 防災キャンプ



11月2日、3日、西谷公園で、「楽しみながら生きる力を学ぶ、広陵ファミリー防災キャンプ」が開催されました。主催されたのは、お米作りを通して世代間交流を行う「箸尾おこめくらぶ」さんと、子どもの居場所づくりを行う「駄菓子屋にしゃん」さんです。

きっかけ

今、子育ての中ではとても難しい現実が家族それぞれにありま

す。日常ではなかなか味わえない体験を通して、「問題解決に向かう」、「またやればできる!」ということを知ってほしいと思い計画しました。

当日は

当日の天気予報は大雨予想でしたが、参加予定の16組40人全員参加で始まりました。

はじめて会う人たちと過ごすことに不安そうだった子どもたちも、すぐに友達を見つげたり、自分の意見をしっかりと伝えて行動するなどの姿がありました。

防災士ネットワークと真美まちづくり協議会に協力をしていただき、西谷公園管理事務所では、テントの設営、防災チャレンジタイムにはダンボールベッドの組み立てなどを行いました。

その後、楽しみにしていた夕飯作りでは雨も上がり、ボイスカウトの皆さんが工夫をこらした炊事場で、料理が始まりました。

ほとんどの子が、薪割りも火おこしも初体験で、おそろおそろ

チャレンジしていました。できた時には歓声が上がリ、「楽しい、もつとしたい」という声があつたカレーは絶品だったようです。

食事後は、畿央大学の学生さんによるキャンプファイヤーが行われ、みんなで踊ったり、歌ったりと笑みが溢れました。保護者からは「家で息子とはこんなに喋らない。今日はたくさん会話ができてとても嬉しい」との声が印象的でした。



夜は、雨上がり後で諦めていたテントでの宿泊も行うことができました。

防災キャンプを通して

この2日間のドキドキ、ワクワクの体験が、子どもたちの中に残って、一つの成長につながれば良いなと思います。

保護者の方には、周りの人たちと共に育ち合う子育て環境をつくっていく一つのきっかけが、この防災キャンプになれば良いなと思います。



楽しみながら考える力、生きる力が育まれるのが素敵ですね!

このイベントは町の「協働のまちづくり提案事業補助金」が活用されています。